

## 第2学年 国語科学習指導案

日 時 平成20年10月10日(金)  
児 童 男子5名 女子4名 計9名  
指導者 三 浦 理 紗 子

- 1 単元名 ようすを考えて読もう  
教材名 「お手紙」

### 2 子どもの実態

子どもたちはこれまでに「ふきのとう」「スイミー」の学習を通して、だれがだれに話しかけているのかを明らかにしたり、どんな様子でいるのか、周囲の様子はどうかなどについて想像したりする学習を行ってきた。

「ふきのとう」の学習では、場面の様子がわかる言葉にサイドラインを引き、叙述をもとに想像を広げる学習をした。「しんとして」「小さな声」「ささやいて」などの言葉を根拠に、様子の伝わる音読を工夫することで、場面の様子を想像することができた。

「スイミー」の学習では、登場人物の気持ちがわかる言葉にサイドラインを引き、想像を広げる学習をした。「とてもかなしかった」のようにはっきりと様子や気持ちが表れた言葉に着目するだけでなく、「泳ぐのはだれよりもはやかった」というような細部にまで着目できるようになった。

根拠となる言葉を大切にすることで、表情豊かに音読ができるようになってきている。子どもたちは、表現の工夫をして音読することを楽しんでおり、本単元でも生き生きと活動することが期待される。

どちらの学習も、「劇」「音声劇」を全校発表するという目標を設定したため、最後まで高い意欲を持ち学習することができた。

### 3 単元について

本単元「ようすをかんがえて読もう」は、「だれが・どうした」に気をつけて、登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読んだり、声に出して読んだりし、お話を楽しむことをねらいとしている。

教材「お手紙」は、「手紙を一度ももらったことがない」といじけてしまうがまくんと、そんながまくんの寂しさに共感し、何とかがまくんを喜ばせようと内緒でお手紙を書くかえるくんが主人公の、いずれも二年生にはぴったりとその心が感じとれるお話である。

この作品は、①お手紙を待つがまくん、②お手紙を書くかえるくん、③がまくんを励ますかえるくん、④幸せな気持ちでお手紙を待つ二人、⑤お手紙を喜ぶがまくんの五つの場面で構成されている。文章構成は簡潔で分かり易く、かえるくんとがまくんの会話を中心に物語が展開されている。またその会話文の中に気持ちや人柄が表れているのも特徴である。

日常生活の中で、手紙を出す楽しみや喜びを経験している子どもたちは、「手紙」を通して行われる心の交流について、登場人物に同化したり共感したりし、想像を広げながら読み進めていくことができると思われる。

### 4 指導にあたって

本単元では、アーノルド・ローベルの作品を読み聞かせ(第1次)、主人公の特徴や気持ちを読み取り(第2次)、会話文を書き足して人形劇の発表会をする(第3次)という言語活動を行う。

第1次では、アーノルド・ローベルの「あしたするよ」「おはなし」「はやくめをだせ」「ぼうれい」を読み聞かせ、がまくんとかえるくんの性格、二人の関係をつかみ、その後の学習に生かしていく。

第2次では、主語・述語の関係を確認した後、場面ごとに読みを深めていく(レベル1)。

「だれもぼくにお手紙なんか」「かえるくんはおおいそぎで」「かえるくんは家からとびだしました」「ぼくにお手紙をくれる人なんて」などのように、叙述の細部にまで着目するために、音読を活用する。

第3次では、第1次で読み取ったがまくんとかえるくんの性格や、第2次で読み取った気持ちをもとに、人形劇の発表会にむけて会話を付け足す活動をする。その際、根拠を明らかにすることを重視する。付け足した会話を生かして、人形劇に取り組む（レベル3）。

## 5 学習指導目標

### (1) 関心・意欲・態度

○登場人物の特徴をつかみ、楽しく音読しようとしている。

### (2) 能力

◎場面の様子を捉え、会話文から登場人物の気持ちを想像して読んでいる。【読むことウ】

◎登場人物の気持ちが表れるように、読み方を考えて音読している。【読むことエ】

### (3) 言語に関する知識・理解・技能

◎文中の主語と述語との関係を理解している。

【言語事項エ(ア)】

## 6 単元重点指導計画 (18時間)

過程	時	指導目標 ・主な学習活動 ※音読活動	評価規準		
			関心・意欲・態度	中心となる能力	言語事項
第1次	1・2	<p>これからの学習に意欲を持たせる。</p> <p>・アーノルド・ローベルの他の作品を読み聞かせを聞く。 ・がまくんとかえるくんの性格や、二人の関係をつかむ。 ※範読</p>	<p>・楽しんでお話を聞いている。 (観察)</p>	<p>・登場人物の性格や、関係をつかむことができる。 (ノート)</p>	
	3・4	<p>教材文を読み、単元の見通しをもたせる。</p> <p>・題名から想像を広げる。 ・全文を通読し学習計画を立てる。 ・感想を発表する。 ※範読、自由読み</p>	<p>・楽しんでお話を聞き、感想をもっている。 (ノート・観察)</p>	<p>・あらすじをつかみ、感想をもつことができる。(ノート)</p>	<p>・わからない言葉を見つけて調べている。 (観察・ノート)</p>
第2次	5・6	<p>誰の会話文であるかに注意しながら、全文を読ませる。</p> <p>・主語と述語の関係をつかむ。 ・誰の会話文であるかを確かめる。 ※指読み、自由読み</p>	<p>・誰の会話文であるかに注意しながら読もうとしている。 (観察)</p>	<p>・誰の会話文であるかを、指摘できる。 (発言)</p>	<p>・主語と述語の関係を理解している。 (発言・ノート・観察)</p>
	7	<p>玄関の前に腰を下ろしているがまくんとかえるくんの気持ちになって音読させる。</p> <p>・会話文をもとに二人の気持ちを読み取り、音読する。 ※役割読み、指名読み</p>	<p>・玄関の前に腰を下ろしている二人の気持ちになって読もうとしている。 (観察)</p>	<p>・玄関の前に腰を下ろしている二人の気持ちになって読むことができる。(発言・音読)</p>	<p>・姿勢、口形などに注意して、はっきりとした発音で話している。(観察)</p>
レベル1					

レベル 1	8	<p>お手紙を書いたかえるくんの気持ちになって音読させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・叙述をもとにかえるくんの気持ちを読み取り、音読する。</li> <li>・お手紙を書こうと思ったわけを考える。</li> </ul> <p>※役割読み、指名読み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お手紙を書いたかえるくんの気持ちになって読もうとしている。(観察)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お手紙を書いたかえるくんの気持ちになって読むことができる。(発言・音読)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢、口形などに注意して、はっきりとした発音で話している。(観察)</li> </ul>
	9	<p>お昼寝をしているがまくんと、お手紙を待っているかえるくんの気持ちになって音読させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会話文をもとに、二人の気持ちを読み取り、音読する。</li> <li>・二人の気持ちのすれ違いをとらえる。</li> </ul> <p>※役割読み、指名読み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お昼寝をしているがまくんとお手紙を待っているかえるくんの気持ちになって読もうとしている。(観察)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お昼寝をしているがまくんとお手紙を待っているかえるくんの気持ちになって読むことができる。(発言・音読)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢、口形などに注意して、はっきりとした発音で話している。(観察)</li> </ul>
	10 (本時)	<p>お手紙のことを話しかえるくと秘密を知ったがまくんの気持ちになって音読させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お手紙のことを話したかえるくんの気持ちを考える。</li> <li>・がまくんの気持ちの変化を読み取る。</li> <li>・二人の気持ちになって音読する。</li> </ul> <p>※役割読み、指名読み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お手紙のことを話しかえるくと、秘密を知ったがまくんの気持ちになって読もうとしている。(観察)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お手紙のことを話しかえるくと、秘密を知ったがまくんの気持ちになって読むことができる。(発言・音読)</li> </ul>	
	11	<p>玄関の前で腰を下ろしているがまくんとかえるくんの気持ちになって音読させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二人の気持ちになって音読する。</li> <li>・初発の感想とこれまでの読みを比べる。</li> </ul> <p>※役割読み、指名読み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関の前で腰を下ろしているがまくんとかえるくんの気持ちになって読もうとしている。(観察)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関の前で腰を下ろしているがまくんとかえるくんの気持ちになって読むことができる。(発言・音読)</li> </ul>	
	第3次	12 13	<p>せりふをつけたす場面を選ばせ、せりふを考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・せりふをつけたしたい場面を選ぶ。</li> <li>・学習を生かしてせりふを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んでせりふを付け足してみたい場面を決めて、会話文を付け足そうとしている。(観察・ノート)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・せりふを付け足してみたい場面を決めて、会話文を付け足すことができる。(観察・ノート)</li> </ul>

レ ベ ル 3	14	劇の練習をさせる。	・進んで練習に取り組んでいる。(観察)	・音読の仕方を工夫することができる。 (発言・観察)
	15	・音読の仕方を工夫して、劇の練習をする。		
	16	※役割読み、自由読み		
	17	※役割読み、自由読み		
	18	劇の発表会をさせる。	・友だちの発表を楽しんで鑑賞している。(観察)	・学習を生かして音読している。(観察)
		・工夫した点を明らかにして、劇を発表する。 ※役割読み		

## 7 本時の指導

### (1) 目標

(関心・意欲・態度)

○お手紙のことを話すかえるくんと、ひみつを知ったがまくんの気持ちになって読もうとしている。

(能力)

◎人物の気持ちを想像し、工夫して音読することができる。

### (2) 指導にあたって

この場面は、がまくんの落ち込んでいた心情が一気に変化する場面である。かえるくんの気持ちとがまくんの気持ち双方を深く読み込むことで、二人のすれ違っていった気持ちが一致するという感動を味わうことができるだろう。

考える場面では、前時までの、お手紙を書いてがまくんを喜ばせたいというかえるくんのわくわくした心情と、誰もお手紙なんてくれるはずないというがまくんの落ち込んだ心情のすれ違いをもう一度確認し、なぜかえるくんはお手紙を書いたことをがまくんに言ったのかという想像につなげる。深める場面では、役割読みの後にインタビューをすることで、豊かな読みへとつなげていく。また、かえるくんの姿を自分に置き換える経験をさせることで、物語の世界に浸る楽しさを感じさせる。さらに、どこでがまくんの心情が変化したのかを、役割読みを用いて考える。読み取ったことを生かしてまとめの音読発表をすることで、自分と友だちの力の伸びを実感させる。

### (3) 本時における音読活動のねらい

つかむ ・役割読み→前時想起をさせる。

・指名読み→学習場面を確認させる。

考える ・役割読み→二人のすれ違いの気持ちを想像させる。

深める ・役割読み→手紙のことを話してしまったかえるくんの気持ちを想像させる。がまくんの心情の変化を理解させる。

まとめる ・役割読み→自分、友だちの力の伸びを実感させる。

### (4) 展開

段階	学 習 活 動 ○発問 ・期待される児童の反応 ※音読	・支援 ●評価 【評価方法】
つかむ	1 前時の想起 (1) 前時までの主人公の気持ちを確認する。 ※役割読み 2 課題把握 (2) 本時の学習場面を確認する。 ※指名読み	・わくわくするかえるくんと、落ち込むがまくんの気持ちのすれ違いを確認させる。  ・7ページと15ページの挿し絵を比べて、気持ちの変化があったことに気づかせる。

8分	<p>(3)学習課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>お手紙のことを話すかえるくんと、ひみつを知ったがまくんの気持ちになって音読しよう。</p> </div>	
考える 7分	<p>3 課題解決</p> <p>(1)二人の気持ちのすれ違いを想像する。 ※役割読み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返し音読することで、すれ違う気持ちを確かめさせる。</li> <li>●気持ちのすれ違いを理解している。【発言】</li> <li>↓</li> <li>・両方の役になり役割読みをさせる。</li> </ul>
深める 20分	<p>(2)お手紙のことを話したかえるくんの気持ちを想像する。 ※役割読み</p> <p>○かえるくんは、お手紙のことを話してしまいました。みんなだったら話しますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話す。かわいそうだから。もうこれ以上悲しませるのはいやだから。</li> <li>・話さない。秘密にしていたほうが喜びも大きいから。</li> </ul> <p>○がまくんに何度も「来やしないよ。」と言われて何を考えましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このまま元気がなくなったらどうしよう。</li> <li>・もう待てない。</li> <li>・がまくんが心配。</li> </ul> <p>(3)がまくんの気持ちの変化を読みとる。 ※役割読み</p> <p>○どこから読み方を変えますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「きみが。」</li> <li>・「ああ。」</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お手紙を書いてくれたことがわかった。</li> <li>・かえるくんの優しさがうれしかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かえるくんの姿を自分に置き換える経験をさせることで、物語の世界に浸る楽しさを感じさせる。</li> <li>・役割読みの後、かえるくん役の子にインタビューをすることで、かえるくんの心情を理解させる。</li> <li>●かえるくんの心情を理解している。【発言】</li> <li>↓</li> <li>・かえるくん役になってインタビューを受けさせる。</li> <li>・読み方をどこから変えるかを考えさせることで、がまくんの心情の変化を理解させる。</li> </ul>
まとめ 10分	<p>4 お手紙のことを話すかえるくんと、ひみつを知ったがまくんの気持ちになって音読する。 ※役割読み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫する点をノートに書く。</li> <li>・工夫する言葉を明らかにして音読する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>具体の評価規準【音読発表】</p> <p>A：工夫する言葉を明らかにして、その通り工夫して音読している。</p> <p>B：工夫する言葉を明らかにして、音読している。</p> <p>Cへの支援：板書をもとに、工夫する言葉を例示する。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートに書くための形式を提示する。</li> </ul>
10分	<p>5 学習感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・力がついた点、新しくわかったことなどを発表する。</li> </ul>	

(5)板書計画

お手紙のことを話すかえるくんと、ひみつを知ったがまくんの気もちになって音読しよう。

かえるくん



がまくん



「かえるくん、どうして、きみ、ずつとまどの外を見ているの。」

「だって、今、ぼく、お手紙をまっているんだもの。」

はやくこないかな、よろこぶかなわくわく

「でも、来やしないよ。」  
もういいよ、ぜったいこない

このまま元気がなくなったらどうしよう  
がまくんがしんばい  
もうまてない

「きつと来るよ。」

「だって、ぼくが、きみにお手紙出したんだもの。」

もうがまんできない、かわいそう

「きみが。」しんじられない  
「お手紙になんて書いたの。」  
びっくり、うれしい

「ああ。」  
「とてもいいお手紙だ。」